

## にじみ、たまり、ひらかれる

本計画では、集合住宅と集会所という2つの建築を通して、「人の交流はどこで、どのように生まれるのか」を考えた。

従来の集合住宅や地域向けの施設では、交流はあらかじめ決められた場で完結しがちである。

そこで、本計画では、「交流」を一つの場所に限定するのではなく、敷地内であればどこでも交流でき、人が集まり、広がり、濃度を変えながら存在するものとして捉えた。







広島信用金庫  
五日市西支店

駐車場

14階建てマンション

歩道

交差点

道路幅員  
12,000

22,000

道路境界線 24,000

46,000

道路境界線 48,000

駐車場

カフェ

小会議室

駐車場

洗面

洗面

調理・給湯コーナー

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

洗面

配置図 兼 各1階平面図 S=1:200

園の下緑地





# つなぎ、めぐり、ひろがる

集合住宅では、「屋根の上にまで広がる交流のかたち」をテーマとした計画である。

従来の集合住宅では、住民同士が出会う場所は廊下や共用ホールなど、あらかじめ用意された限られた空間にとどまりがちであり、交流は特定の場所の中で完結してしまうことが多い。

そこで本計画では、敷地内のどこにおいても交流が生まれうる要素は何かを考え、「屋根」に着目した。

屋根は本来、雨風や日射から人々を守るための“覆い”として建築に不可欠な要素である。しかし本計画では、屋根を単なる防護装置としてではなく、人の動きや行為を受け止め、生活が外へとにじみ出し、敷地全体へと拡散していくための新たな地面、「第2の地面」として捉えた。

緩やかに連続する屋根は、住民を自然に集わせ、語り合ったり、景色を眺めるなどといった行為を誘発しながら、上下階に分断されていた生活を立体的につなぎ合わせる。

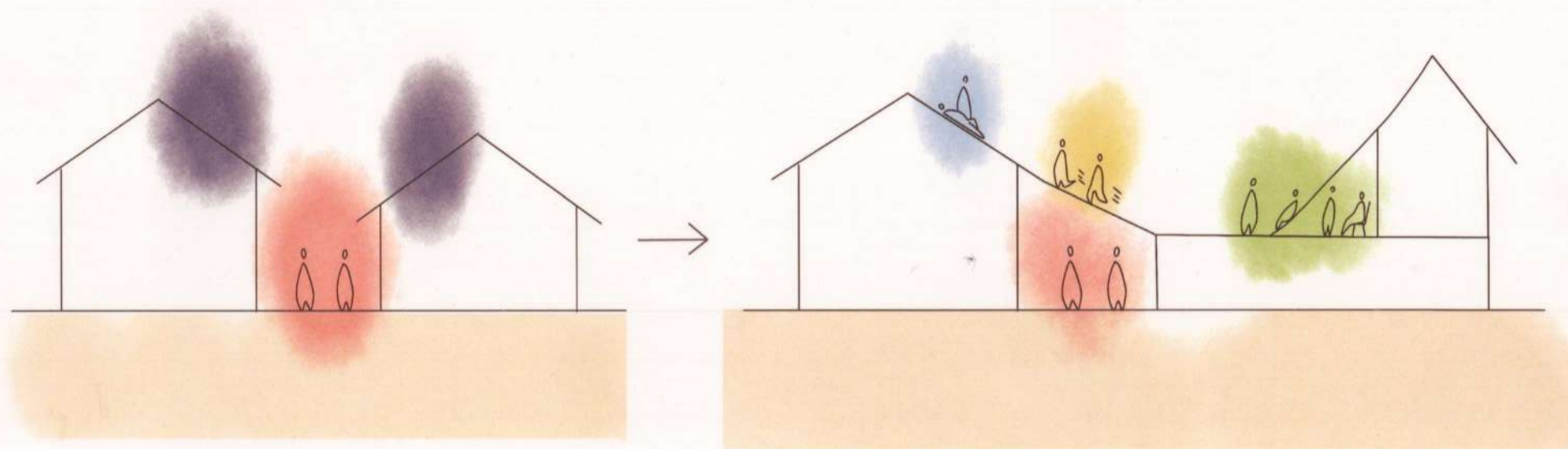
このように屋根を共用空間とすることで、交流は一か所に留まることなく、屋根の上から住戸周辺、外部空間へと水平・垂直方向に広がっていく。

日常の延長としての“屋根上の暮らし”が生まれ、住民の関係性は敷地全体ににじみ出しながら、拡散的に展開されていく集合住宅を目指した。

## I. 屋根による交流の場の拡張, 拡散

屋根の拡張により、限られていた共有スペースが水平・垂直方向に広がり、

住民の声や活動が敷地内、さらには敷地外に拡散される。



## III. 屋根の上での暮らし

第2の地面である「屋根の上」では、子どもたちが滑ったり、夜には星空を眺めたりと、住民の自由な活動が広がる“空に開かれた広場”が形成される。

傾斜のある屋根は、座る・寝転ぶ・登るなど、敷地内を「めぐる」要素となり、居心地の良い空間となっている。



## II. 屋根の下での暮らし

第1の地面である「屋根の下」では、屋根本来の役割を感じながら、自然と寄り添う暮らしが展開される。

雨の日には屋根に打ちつける音を感じながら本を読む、晴れた日には木漏れ日の下で会話を楽しむなど、

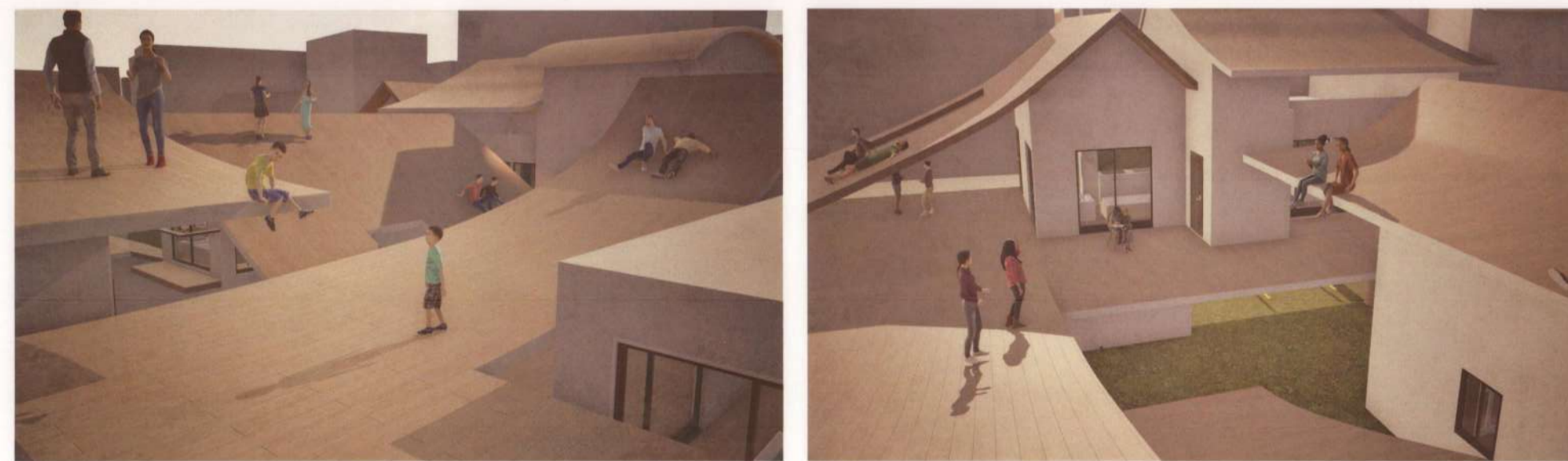
人と自然、内と外の間心地よい距離感を生む空間となっている。



## IV. 自然と交流が生まれる動線計画

動線計画として、屋根を通して敷地内を自由に回遊できる動線とすることで、自然と住民同士で交流できるような動線となっている。

さらに、屋根同士をすべてつなげるのではなく、届きそうで届かないような配置にし、わざわざ遠回りして目的の場所へ移動することで、道中、偶発的な交流を促進させる計画となっている。

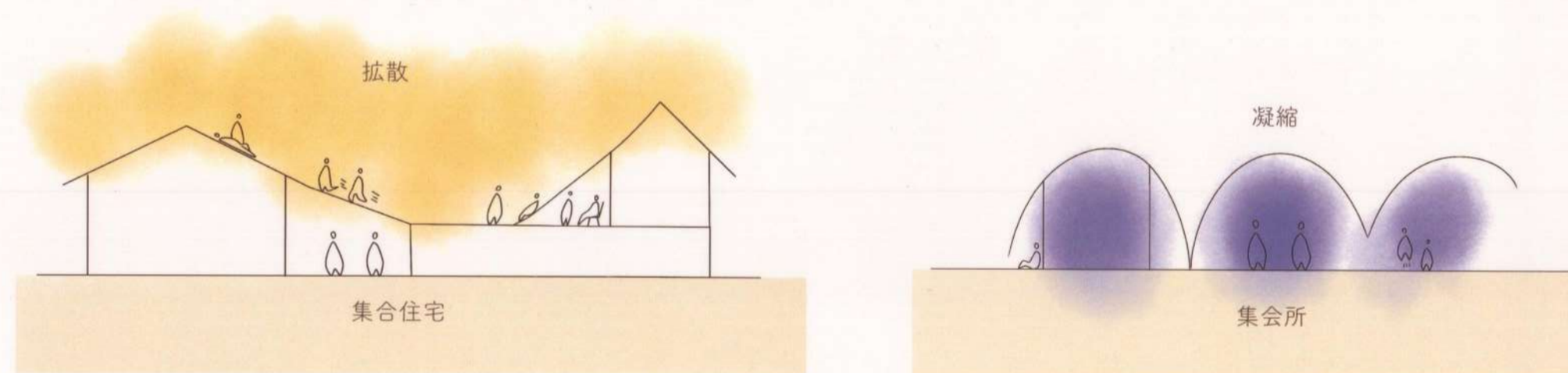


# つまれ、たまり、うけとめる

集会所では、近隣住民が集い、地域の関係性をつないでいく場所としての在り方を考えた。  
 集合住宅で交流が屋根の上から敷地全体へと「拡散」していくのに対し、集会所では、人の声や活動、気配を一度受け止め、内側に凝縮する空間をつくった。  
 地域における交流は、ただ開放するのではなく、安心して滞在できる「包まれた場」をつくることで関係が深まると考えた。  
 本計画では、屋根の操作ではなく、ヴォールトという「覆い」の形式に着目している。  
 ヴォールトは、人を包み込み、声や視線、動きを空間の中に留める形状になっていて、地域の人々が集まるための器となる。  
 さらに、ヴォールトを集合住宅に向かって段階的に開くことで、「凝縮」と「拡散」の空間があいまいになっていく。

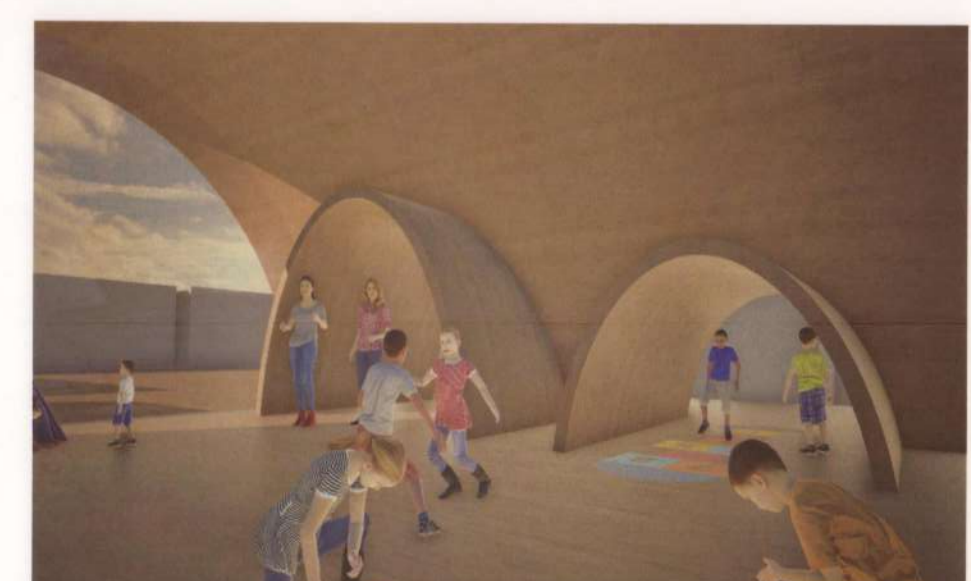
## I. ヴォールトにより交流を受け止める

集合住宅のように、人の声や活動、気配を拡散するのではなく、ヴォールトという覆いによって「受け止め、包み込む」。これにより、受け止めたものがヴォールト内に溜まり、地域との関係、交流が濃く感じられる。



## III. ヴォールトの下での活動

ヴォールトの下では、特に用途を設けず、利用者が自由に使える多目的な空間となっている。地域向けのイベントはもちろん、日常的な立ち話、個人的な作業など、様々な活動が重なり合い、ヴォールトの下で同じ時間を共有していくうちに、関係が凝縮され、利用者同士の距離が徐々に縮まっていく。

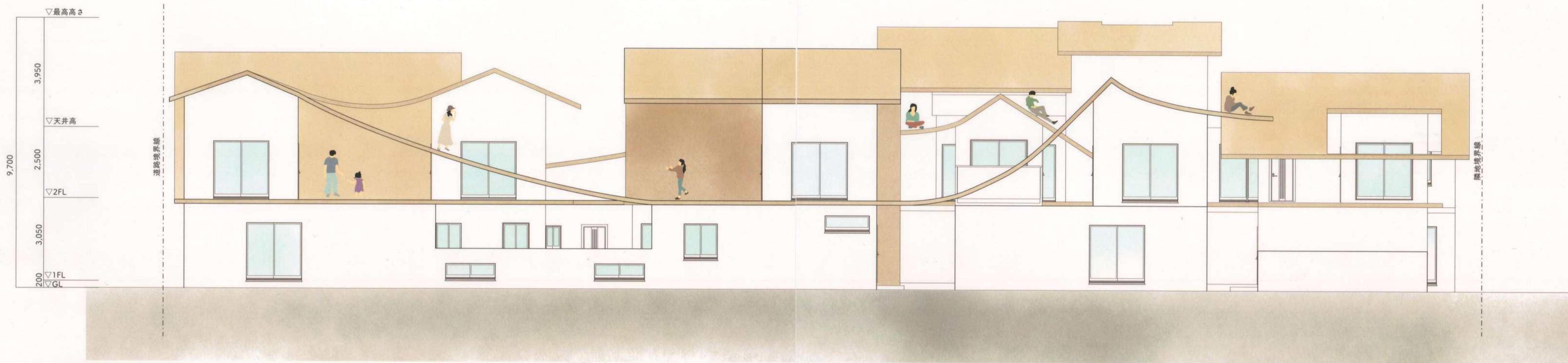


面積表		
	集合住宅	集会所
1階床面積	631.47 m <sup>2</sup>	188.48 m <sup>2</sup>
2階床面積	396.01 m <sup>2</sup>	
延べ床面積	1,027.48 m <sup>2</sup>	188.48 m <sup>2</sup>

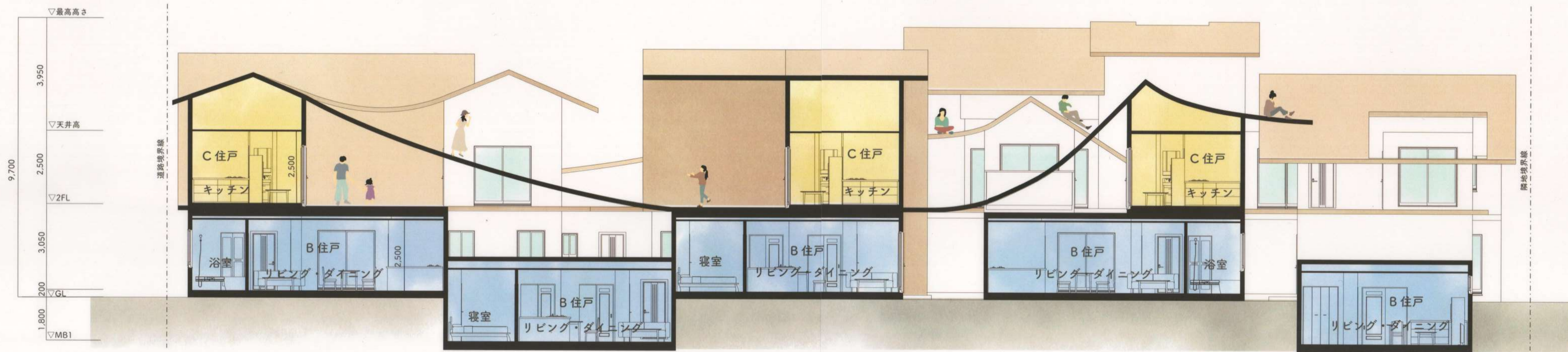
## III. 空間のグラデーション

空間構成として、集会所の敷地内をX方向に3分割に分け、集合住宅に向かうにつれてヴォールトが徐々に開いていく構成とした。また、Y方向には公園に対しての抜けをつくっており、ヴォールトをトンネルのようにくぐり公園にアクセスできる動線とした。

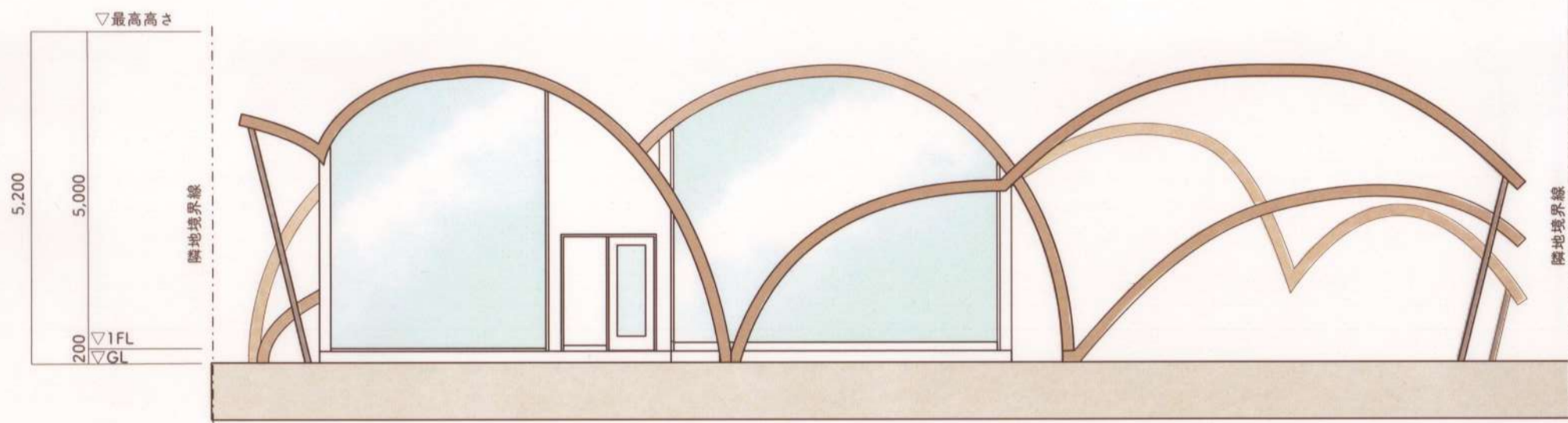




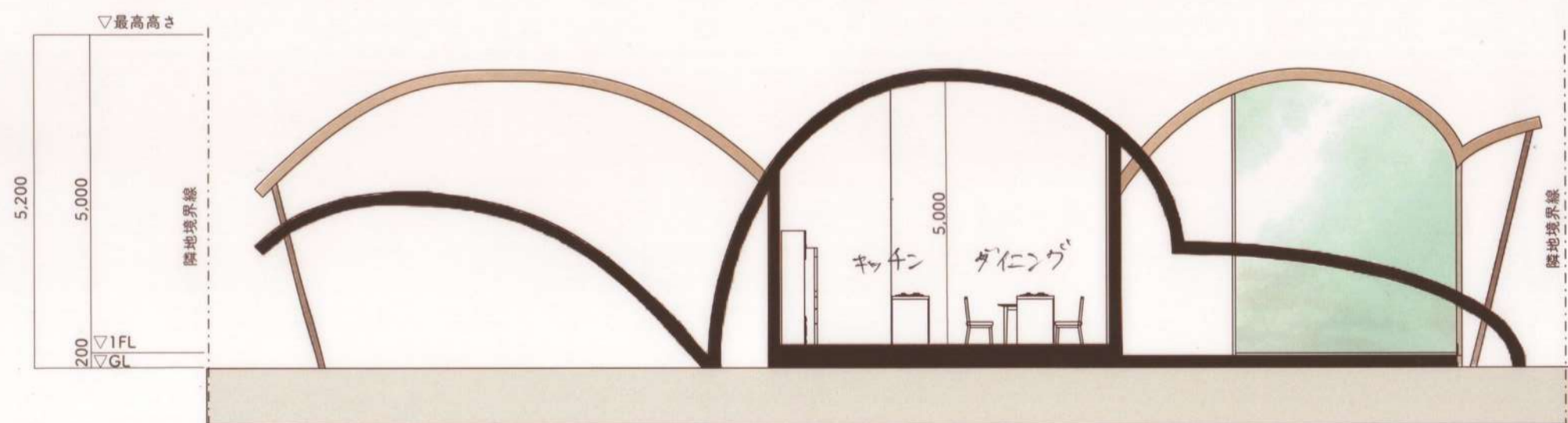
南側立面図 S=1:100



X-X' 断面図 S=1:100



北側立面図 S=1:100



X-X' 断面図 S=1:100

